

越谷市における水泳授業の在り方について（素案）の概要

構成 素案では、「はじめに」と第1章から第5章、巻末資料の構成となっています。

はじめに	1
第1章 水泳授業・プール施設等の現状と課題	1
1. 水泳指導、施設・水質の基準等	1
2. 水泳授業・部活動等の現状	4
3. プール施設の現状	6
4. 学校以外のプール施設	10
5. アンケート調査	13
6. 現状における課題	20
第2章 様々な取組事例	21
1. 全国における事例	21
2. 県内における事例	22
第3章 モデル事業の実施と検証結果	25
1. モデル事業の内容	25
2. 効果検証	26
3. 成果と課題	34
第4章 今後の取組に向けての検討	36
1. 各取組の比較	36
第5章 本市の水泳授業の在り方について	40
1. 基本的な考え方	40
2. それぞれの取組と実施にあたっての留意事項	40
3. 市内各小中学校における方向性	42
巻末資料	44

※右の数字は素案のページを示しています

はじめに

・昭和30年の大きな水難事故2件をきっかけに、学校で水泳指導が全国的に実施された。その後、昭和36年のスポーツ振興法制定により学校プール建設への補助が定められ、プール施設の建設が進んだ。

・近年、全国的に水泳授業の在り方を見直す自治体が増えている。要因として、昭和40～50年代多数整備されたプール施設の老朽化、水泳授業実施の様々な課題、コロナ禍により約3年間水泳授業中止したこと等。

・本市においても水泳授業における課題が顕在化していることから、令和6年度に大袋小でモデル事業を実施、内容と成果を検証した。

・本市における水泳授業の在り方を検討し、今後の方向性を示すことで、よりよい水泳学習の提供を図る。

第1章 水泳授業・プール施設等の現状と課題

□水泳授業の年間時間数

表 令和6年度 水泳授業計画時数及び実施時数との差 ※全学年の平均時間数

	計画時数							計画時数と実施時数との差				
	6時間	7時間	8時間	9時間	10時間	11時間	12時間	計画通り	1時間減	2時間減	3時間減	4時間減
小学校数	3校	1校	18校	2校	5校	0校	0校	19校	4校	4校	0校	2校
中学校数	2校	3校	4校	1校	3校	1校	1校	11校	1校	2校	1校	0校

□夏季休業中の水泳指導 熱中症対策のため、実施していない

□部活動 令和6年度現在、市内中学校15校中、1校（北陽中）

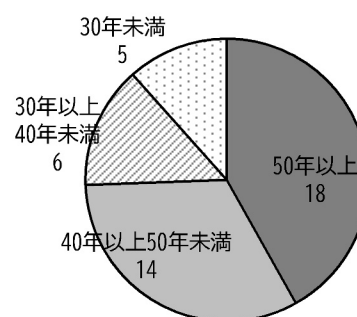
□プール施設の老朽化 プール耐用年数は概ね30年

□プールの維持管理費用

施設の修繕・改修工事費（直近5年平均）31,908,137円

保守点検費・薬剤・水道代等（R5実績）20,251,802円

∴1校・1年あたり平均 1,185,453円



□清掃

- ・防火水槽も兼ねているため、水泳期間開始前に清掃。
- ・清掃方法は、教職員・児童生徒21校、業者委託19校、保護者ボランティア2校、修繕のため清掃なし1校（43校、R6実績）

□開設前点検

- ・指針に基づき、教職員が点検（特に排水口・環水口）

□日常管理（プール利用時期）

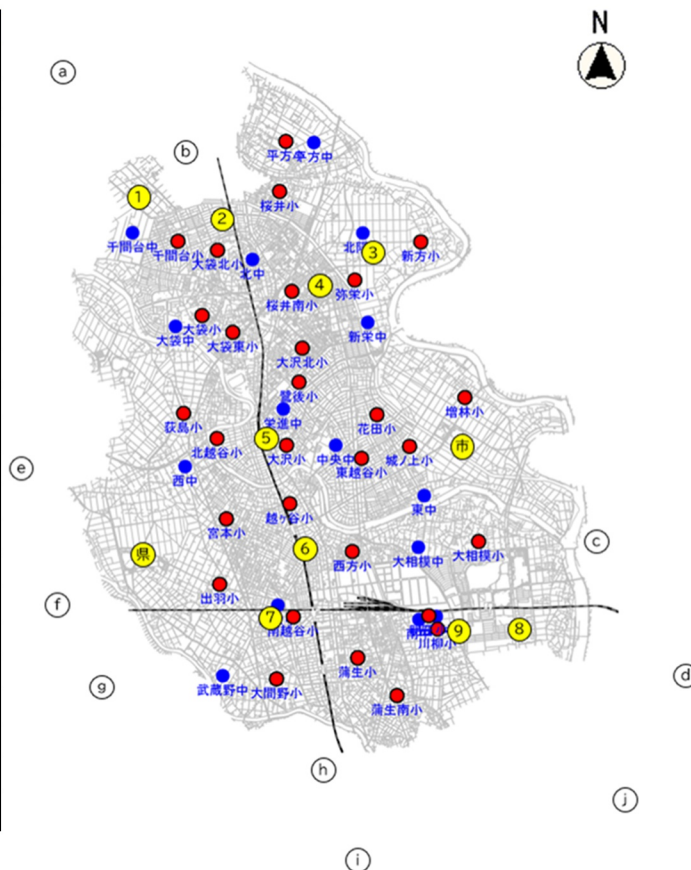
- ・毎朝：プールサイド等の施設や水質の確認、塩素の注入、ごみの除去など
- ・授業時：水質管理の外、児童生徒の安全確保など
- ・放課後：水質管理・ろ過機の洗浄等の施設管理など

表 日常管理の例

項目	管理内容（管理業務）	時間帯			その他
		始業前	授業	放課後	
施設管理	プールサイドの点検(破損・腐食・異物等の有無)	○	○	○	週末・週明けは細部まで
	プールサイドの清掃	○		○	
	水位の確認	○	○	○	不足の場合は注水
	排水口の確認	○	○	○	
	ろ過機の運転確認	○			
	用具の準備・確認(コースロープ・プールフロア等)		○		
水質管理	用具の片付け		○		
	ろ過機洗浄			○	
	塩素濃度確認	○	○	○	週明けに適正値まで調整
	塩素注入	○	○	○	週末は多目に注入
	目視での水質確認(透明度、壁面汚れ、異物の有無)	○	○	○	
児童生徒の安全確保	浮遊ごみ除去(網等の用具使用)	○	○	○	
	オーバーフローでごみを除去				適時行う
	水温・気温の確認	○	○	○	
	毛布等緊急時の準備	○			
	AEDの移動・準備		○		
	授業前後人数確認		○		
記録	児童の健康状態把握		○		
	毛布等の用具片付け			○	
	見学者の安全確保(日陰等見学位置の確保、体調管理等)	○	○	○	見学位置確保は業前・業後
	授業開始前の状況をプール日誌に記載	○	○	○	
	実施の可否について職員に周知	○			昼休みにも確認
	水温・気温・塩素濃度の記録	○	○	○	
人数、指導者・指導内容について記載		○			
授業終了後の状況をプール日誌に記載			○		
翌日への引き継ぎ事項を日誌に記載			○		

□学校以外のプール施設

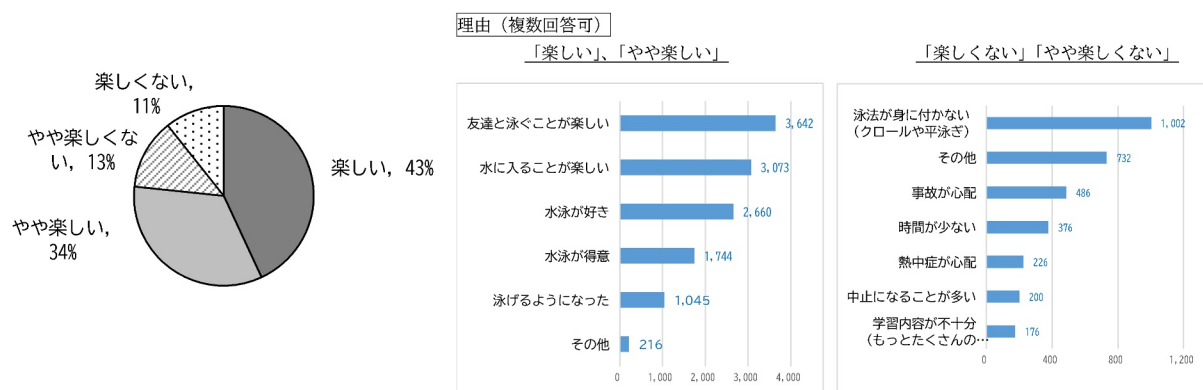
地図番号	所在地	名称
市内		
市	越谷市増林	(市営) 越谷市民プール
県	越谷市北後谷	(県営) ときめき元気館 屋内温水プール
①	越谷市恩間新田	あゆみスイミングスクール
②	越谷市千間台西	東武スポーツクラブ プレオンせんげんだい
③	越谷市大杉	ウィンわかぼスポーツクラブ
④	越谷市下間久里	スウィン越谷スイミングスクール
⑤	越谷市大沢	東武スポーツクラブ プレオン北越谷
⑥	越谷市瓦曽根	セントラルウェルネスクラブ24越谷
⑦	越谷市新越谷	スウィン南越谷スイミングスクール
⑧	越谷市レイクタウン	越谷レイクスイミングスクール
⑨	越谷市レイクタウン	セントラルフィットネスクラブ24越谷レイクタウン
周辺		
Ⓐ	春日部市下大増新田	かすかば湯元温泉
Ⓑ	春日部市大場	埼玉スウィンスイミングスクール春日部
Ⓒ	吉川市吉川	スイミングクラブ ルネサンス吉川
Ⓓ	吉川市美南	ルネサンスイオンタウン吉川美南
Ⓔ	さいたま市岩槻区美園東	スウィン美園スイミングスクール
Ⓕ	川口市東川口	朝日スポーツクラブ[BIG-S東川口]
Ⓖ	川口市戸塚	東川口スイミングセンター
Ⓗ	草加市旭町	草加スイミングスクール
⑩	草加市松原	コ・ス・パ草加松原24
⑪	三郷市上彦名	ヒューマンスイミングスクール・みさと



□アンケート調査（令和6年2月16日～3月13日）

児童・生徒【小5・6年生、中1・2年生／11,534人中 7,873人回答（68.3%）】

Q 現在の水泳授業について、どのように思いますか

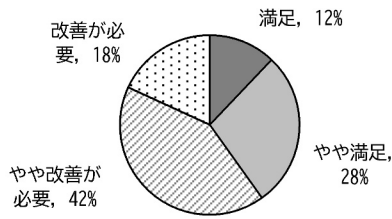


水泳授業について意見（自由記述） ※意見1,513件中、上位10位まで

- ・授業時間・日数が少ない、2コマ連続希望 239
- ・室内（温水）プールが良い 145
- ・男女別授業にしてほしい（教員含む） 99
- ・水が汚い、ごみ・虫など入っている 76
- ・指導法へ要望（泳げない人へ丁寧に、指導者増等） 43
- ・寒い（天候への配慮、体調不良への不安等） 39
- ・シャワー・プールの水が冷たい（温度を上げて） 157
- ・授業内容を易しく（自由時間・誰でもできる等） 126
- ・水泳授業廃止（不要、事故の危険、やりたくない等） 78
- ・施設（衛生）管理（きれいな施設で行いたい等） 68
- ・水泳が好き・頑張る・なくさないで欲しい等 39

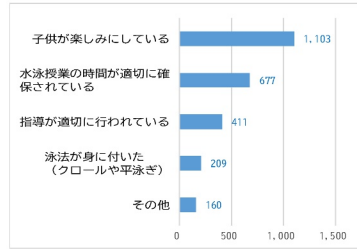
保護者【小5・6年生、中1・2年生／10,124人中 4,501人回答(44.5%)】

Q 現在の水泳授業について、どのように思いますか

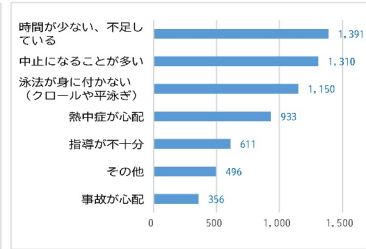


理由(複数回答可)

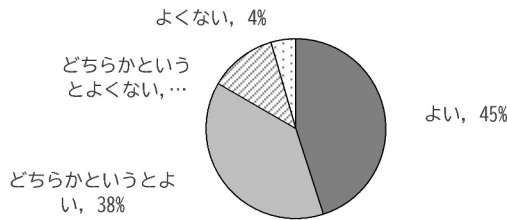
「満足」、「やや満足」



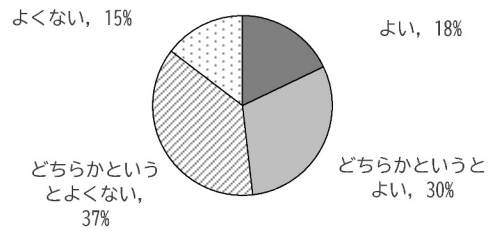
「改善が必要」、「やや改善が必要」



Q 民間プール活用について、どのように思いますか



Q プール共同利用について、どのように思いますか



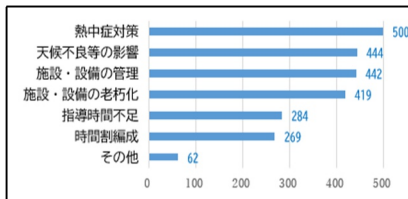
水泳授業について意見(自由記述) ※意見1,168件中、上位6位まで

- ・水泳授業必要ない、再検討すべき 189
- ・(課題はあるが)水泳授業を継続して欲しい 79
- ・着衣水泳・水難事故防止教育を(泳法指導なくても) 73
- ・民間委託すべき、民間委託に期待 141
- ・授業回数少ない、中止が多い 76
- ・屋内(温水)プールを希望する 47

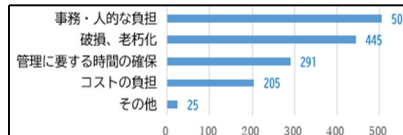
教職員【小学校関係教職員・中学校管理職・保健体育科教職員／796人中 651人回答(81.8%)】

Q (下記の項目について)課題と感ずるものは何ですか(複数回答可)

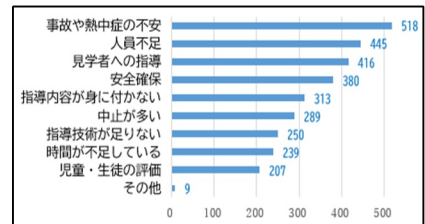
学校における水泳について



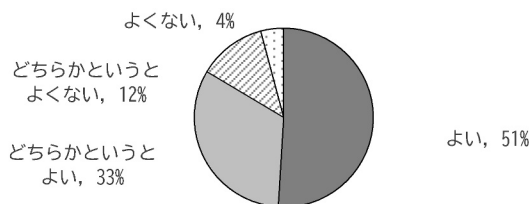
プール施設・設備の管理において



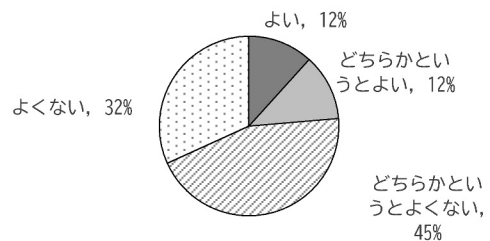
水泳指導(水泳授業)を行う中で



Q 民間プール活用について、どのように思いますか



Q プール共同利用について、どのように思いますか

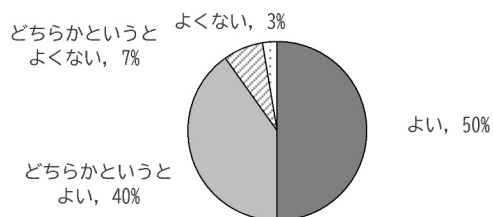


水泳授業について意見(自由記述) ※意見205件中、上位6位まで

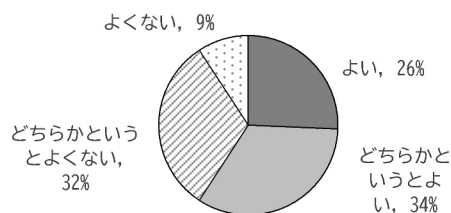
- ・民間委託を希望(安全面・指導面・設備面・泳力向上) 35
- ・天候不順により実施困難(暑さ等) 19
- ・老朽化により、施設が故障・破損、水質の悪化 15
- ・人員が不足(指導・安全確保等) 14
- ・教職員の負担 13
- ・安全面の不安・精神的な負担(指導者が少ない) 13

学校運営協議会委員【238人中 152人回答（63.9%）】

Q 民間プール活用について、どのように思いますか



Q プール共同利用について、どのように思いますか



水泳授業について意見（自由記述） ※意見91件中、上位5位まで

- ・水泳授業は継続して欲しい 21
- ・課題があるので、（必要性も含め）検討が必要 10
- ・民間委託の場合の課題（教員の役割、施設の安全性、指導内容、費用負担） 8
- ・更衣水泳・水難事故防止教育を（泳法指導なくても） 8
- ・民間委託の活用を 6

□現状における課題

水泳授業の計画的な実施が困難	<ul style="list-style-type: none"> ・天候・水温・気温の影響を受けやすい ・猛暑による熱中症も懸念される
指導体制の確保	<ul style="list-style-type: none"> ・安全確保のため監視者も必要であり、複数の教員が必要となる（小規模校では人員の確保が難しい）
多くの学校でのプール施設老朽化	<ul style="list-style-type: none"> ・耐用年数の30年以上の施設がほとんどで、順次、大規模改修や施設更新が必要となり、財政負担が懸念される
維持管理コストの負担	<ul style="list-style-type: none"> ・保守点検・修繕費、薬剤・検査資材費、光熱水費などが毎年一定額必要である
教職員への負担	<ul style="list-style-type: none"> ・教職員が安全点検・日常管理・水質維持管理を行うため、多くの負担がある ・水泳授業実施日が減少しても、負担は変わらない

第2章 様々な取組事例

□県内における取組状況（令和6年度）

- ・令和7年1月、県内自治体を対象に調査。越谷市を含む63自治体の集計。
（学校数：小学校791校、中学校409校、義務教育学校3校／合計1,203校）

県内自治体における取組状況等一覧表（令和6年度実績）

項目		実施自治体数	実施等率	実施校数	実施等率	備考
水泳授業の方針策定済		11	17.5%			
自 校 の プ ル 利 用 ★ 用 以 外	民間委託	36	57.1%	171	14.2%	(移動) 徒歩11件・バス35件 ★
	うち、全校で実施	2	3.2%	38	3.2%	
	施設共同利用	9	14.3%	28	2.3%	(移動) 徒歩4件・バス5件 ★
	公営プール利用 ※	9	14.3%	20	1.7%	(移動) 徒歩6件・バス4件・自転車1件 ★
	水泳実技の廃止	12	19.0%	48	4.0%	廃止は中学校のみ
その他の取組		2	3.2%			(例) 拠点校にプール集約を検討
プールを授業で使用していない学校		43	68.3%	233	19.4%	
プ ル 利 用 し て い な い ★	解体撤去(予定含む)	10	15.9%			
	そのまま残置	28	44.4%			
	他の用途に利用	7	11.1%			(例) 消防水利、ピオトープ、駐輪場、アーバンスポーツ活動場所として開放

★ 一つの自治体で複数の取り組みの場合もあります。

※ 公設民営も含まれます。

第3章 モデル事業の実施と検討結果

□対象児童数

第1学年	第2学年	第3学年	第4学年	第5学年	第6学年	合計
95	74	84	78	81	89	501

※特別支援学級児童数も含む

□授業概要

- ・全学年（特別支援学級含む）60分の授業を4回実施（学校授業2時間に相当）。
- ・委託業者のマイクロバスに乗り、民間水泳施設へ移動する。
- ・泳力別に最大5グループに分け、教員3名・インストラクター5名で指導、別途監視員1名。
- ・授業の評価は教員が行う。見学者は見学スペース又はプールサイドで見学。

業前	1時間目	2時間目	業間	3時間目	4時間目	
	8:35~9:20	9:30~10:15		10:35~11:20	11:30~12:15	
	移動・着替え	水泳指導60分	着替え・移動	移動・着替え	水泳指導60分	着替え・移動

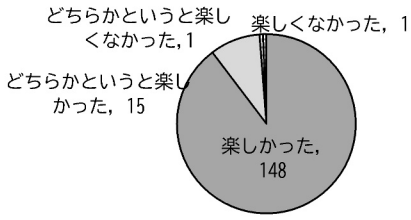
□契約金額 5,679,520円

□委託業者 (株)イナホスポーツ スウィン越谷スイミングスクール

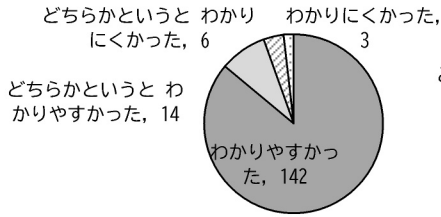
□モデル事業アンケート調査（令和6年7月16日～7月31日）

1・2学年児童【169人中 165人回答（97.6%）】

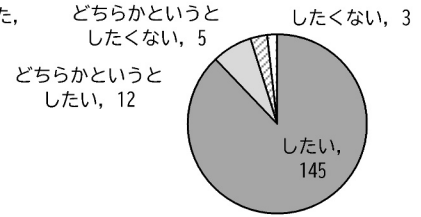
Q みずあそびは たのしかったですか



Q がくしゅうは わかりやすかったですか

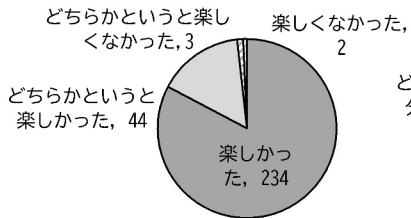


Q また 同じプールで がくしゅうをしたいですか

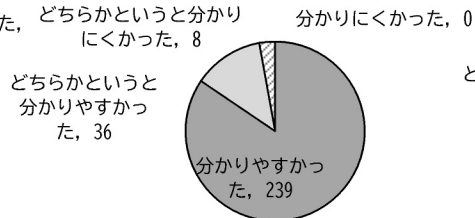


3～6学年児童【348人中 283人回答（81.3%）】

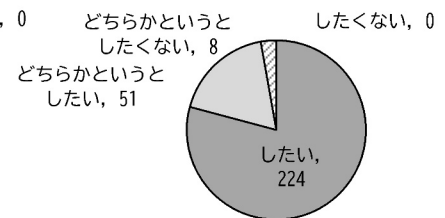
Q 水泳授業は楽しかったですか



Q 水泳授業はわかりやすかったですか

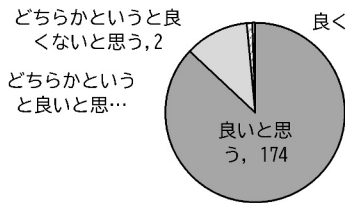


Q また同じプールで授業をしたいですか

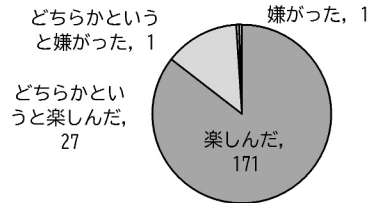


保護者【400人中 200人回答（50.0%）】

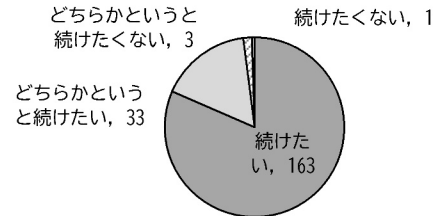
Q 民間プールを活用することについて



Q お子様の水泳授業への反応について

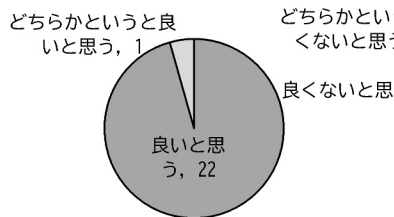


Q 今後も民間プールの活用を続けたいか

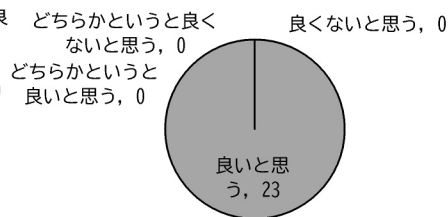


教職員【25人中 23人回答（92.0%）】

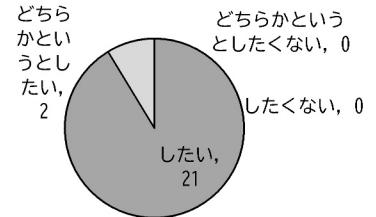
Q 水泳授業の民間プール活用について



Q 民間のインストラクターの水泳指導について



Q 今後も民間プールを活用したいか



学校運営協議会委員【5人中 5人回答（100.0%）】

Q 民間プールを活用することについて

よい, 3 どちらかというよい, 2

□モデル事業の成果

・アンケート結果：全ての対象種別から、民間プールの活用及び取組の継続について肯定的な回答が多数あり、「わかりやすかった」「泳ぎが上達した」「教職員の負担が少なくなった」「専門の指導に触れ、指導力が向上した」「見守りの目が増え安全性が向上した」などの回答も多く、十分な効果が得られた。

・児童の泳力等：事業実施後の調査において、25m以上泳げる児童の割合が、6年生のクロール以外はすべて本市、東部事務所管内及び県よりも高くなった。低学年では水遊びを通して水に慣れること、潜ることができるようになった児童が増えたり、中学年では水に浮くこと、バタ足で泳ぐことができる児童が増えたりするなど、技能を向上させることができた。

□課題

・学校と施設の移動や、施設内での更衣など、水泳授業前後の移動や準備が課題として挙げられる。バスでの移動では、交通混雑による遅れがあった。

・アンケートからは、「授業の回数を増やしてほしい（児童・保護者）」、「事業者と学校の連携を図りやすくしてほしい（教職員）」、「事業者が変わることが不安である。事業者の選定方法についても検討してほしい（教職員）」などの要望もあった。

第4章 今後の取組に向けての検討

□自校屋外プール建設・維持管理

自校プールの更新・維持管理に係るコスト

プール解体工事費 (①)	RC造, プール床面積573.39㎡, 付属棟床面積93㎡	34,300,000円
プール建設工事費 (②)	ステンレス槽, プール床面積710㎡, 付属棟床面積140㎡	303,050,000円
更新に要する費用 (③)	①+②	337,350,000円
1年当たりの更新費用 (④)	③÷30(年)	11,245,000円
1校・1年当たりの維持管理費(⑤)	8ページ参照	1,185,453円
年間コスト	④+⑤	12,430,453円

メリット	デメリット(課題)
<ul style="list-style-type: none"> ・移動時間がかからず、敷地外に出ないことから安心である ・緊急時に、すぐに職員室や保健室に連絡し、対応することができる。 ・防火水槽の役割も兼ねている ・他の学校や事業者との調整が不要である 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業実施が天候に左右され、計画的な実施が難しい ・中長期的には改修や更新が必要であり、毎年の維持管理にも費用がかかる ・教職員が複数人で指導にあたる体制が必要である ・費用面以外にも、施設や水質の維持管理のための教職員の負担が大きい ・人為的な管理上の事故が起こりうる ・敷地または校舎の一定面積を占有している

□民間委託

令和6年度モデル事業（小学校）の年間費用

施設使用・指導費用	501人（全児童）×4回	3,607,200円
安全管理監視員費用	監視員1名×7学年（特支含む）×4回	56,000円
施設費	施設・バス管理	1,500,000円
消費税		516,320
年間コスト		5,679,520円

メリット	デメリット（課題）
<ul style="list-style-type: none"> ・屋内温水プールのため、天候に左右されず計画的に授業を実施できる ・屋内で水温管理もされ、快適に水泳ができる ・インストラクターの指導により専門的な水泳技術を学ぶことができる ・プール管理の負担が軽減できる ・自校施設利用よりコストが低減できる ・プールを解体後、跡地を有効活用できる 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校から施設までの移動時間がかかる ・校外への移動の誘導・安全確保が必要になる ・事業者と授業内容や実施時間割の調整が必要になる ・プール跡地の管理または解体が必要になる ・プールを解体した場合、防火水槽設置が必要な場合がある ・近隣に民間施設がない場合、実施できない

□施設共同利用

施設共同利用（3校想定）における更新・維持管理に係るコスト

プール解体工事費 ①	「自校プール建設・維持管理」での試算額	34,300,000円
プール建設工事費 ②	屋内、建物床面積959㎡、可動床、付属施設含む	561,570,000円
1校・1年当たりの更新費用 ③	(①+②)÷3 ※3校共同利用	198,623,333円
1校・1年当たりの更新費用 ④	③÷30(年)	6,620,777円
1校・1年あたりの維持管理費 ⑤	8ページ参照	1,185,453円
年間コスト	④+⑤	7,806,230円

メリット	デメリット（課題）
<ul style="list-style-type: none"> ・施設の建設・維持管理のコストが低減できる ・非設置校における施設や水質の維持管理等の負担が軽減できる ・学校間の連携が深まる ・非設置校はプール解体後、跡地を有効活用できる 	<ul style="list-style-type: none"> ・他校と授業日程の調整が必要になる ・設置校までの移動時間がかかる ・校外への移動の手段・安全確保が必要になる ・施設や水質の維持管理等の負担が、共同利用する学校間で偏らないよう配慮・工夫する必要がある ・非設置校はプール跡地の管理または解体が必要になる ・非設置校は防火水槽の設置が必要な場合がある ・人為的な管理上の事故が起こりうる

□公営プール利用

・現在、市内で新たな公営プール建設の計画はなく、学校と市民が共同利用する公営プールを建設する方法も考えられるが、コストについては単純に比較ができない。

メリット	デメリット（課題）
<ul style="list-style-type: none"> ・屋内温水プールのため、天候に左右されず計画的に授業を実施できる ・屋内で水温管理もされているため、快適に水泳ができる ・プール管理の負担が軽減できる ・自校施設利用よりコストが低減できる ・プールを解体後、跡地を有効活用できる 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校から施設までの移動時間がかかる ・校外への移動の手段・安全確保が必要になる ・運営主体と授業内容や実施時間割の調整が必要になる ・学校利用について、市民の理解が必要となる ・プールを解体した場合、防火水槽設置が必要な場合がある

□水泳実技の廃止

プール解体、防火水槽設置に係るコスト

プール解体工事費 (①)	「自校屋外プール建設・維持管理」での試算額	34,300,000円
防火水槽工事費 (②)	R5年度設置工事費（60t×2基）より	26,400,000円
年間コスト	(①+②)÷30（年）	2,023,333円

※民間委託・公営プール利用においても、プールを撤去する場合は、同様のコストが必要になります。

メリット	デメリット（課題）
<ul style="list-style-type: none"> ・プールの更新・維持管理が不要となる ・プール管理が不要となる ・プールを解体後、跡地を有効活用できる 	<ul style="list-style-type: none"> ・水泳実技による効果が得られなくなる ・水泳を経験しない、泳げない児童生徒が増加する ・水泳の事故防止は座学のみとなる ・プールを解体した場合、防火水槽設置が必要な場合がある

第5章 本市の水泳授業の在り方について

□水泳授業の継続について

水泳は小学校学習指導要領体育科の運動領域、中学校学習指導要領保健体育科の体育分野に位置付けられています。県内では、財政面で施設の老朽化等に対応ができず中学校に限り水泳の実技を廃止している自治体もありますが、中学校学習指導要領において「水泳の指導については、適切な水泳場の確保が困難な場合にはこれを扱わないことができる」とされていますが、その続きに「水泳の事故防止に関する心得については、必ず取り上げること。」とされています。

本市といたしましては、水泳授業のきっかけとされている水難事故だけでなく、川遊びなどで児童・生徒自身がおぼれた場合等の備えとして小中学校における水泳授業は重要と捉えていること、またスポーツ庁の調査による国民の運動習慣の種目で、小中学校でともに扱う運動の中で、直接生涯スポーツとして上位に位置するのは「ランニング（持久走）」について「水泳」となり、小中学校で水泳を学ぶことは生涯にわたった運動習慣の定着に直接つながると考えることから、小中学校における水泳授業を継続いたします。

□取組の方向性について

水泳授業については今後も継続しますが、全校で自校プールを維持していくことは、教職員の負担の面や、今後予想される厳しい財政状況の中でも非常に困難と考えられます。

各課題や先進事例、アンケート結果など踏まえた、本市における今後の取組における方向性についてですが、民間委託については、大袋小学校のモデル事業実施後に行ったアンケートにおいて、児童・保護者・教職員・学校運営協議会委員の方々から、民間プールの活用及び取組の継続について、肯定的な意見を頂いていること、また、児童生徒の泳力向上や施設維持管理等のコスト縮減、教職員の負担軽減の効果が期待できることから、各学校においてプール施設の老朽化や水泳授業運営における課題の発生により水泳授業の継続が困難になると見込まれる場合、民間プールを活用できる学校において、その活用について検討を進めていくこととします。

一方、施設共同利用や市民プール等の利用については、各学校とプール施設との立地のほか、安全面や各学校におけるカリキュラム編成の調整などの課題があることから、慎重に検討します。